

## 日本国際看護学会 第 6 回研究分科会報告書

ブロック名	北海道・東北 ブロック	報告委員名	土谷ちひろ、松永早苗	
実施日時	2022 年 12 月 9 日 15:00 ~ 17:00		実施場所	Zoom
分科会テーマ	国際看護の研究紹介～質的研究～		講師名・所属	情報提供:松永 早苗先生 (神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター准教授) アドバイザー:山田 智恵里先生 (日本国際看護学会 監事)
参加者	計 8 人 (講師以外)			

北海道・東北 ブロック共催の研究会テーマを「国際看護の研究紹介～質的研究～」とし、講師が自身の質的研究の事例を紹介しながら会を進めた。質的研究の事例を紹介する合間に、質問を織り交ぜ、アドバイザーの山田先生から助言を頂きながら会を進行した。講師の発表内容は、リサーチエッションの見つけ方、研究の背景、用語の定義の方法、研究方法、インタビュー手法、分析方法についてであった。松永先生の質問内容としては、①リサーチエッションの絞り込み、②研究方法についての質問、③用語の定義の決め方、④倫理審査について、⑤分析方法について、⑥準備教育プログラムの開発について、などがあった。アドバイザーである山田先生から、質的データの分析方法についてこれまでの知見を基に助言をいただいた。

後半は意見交換を行い、参加者が抱く研究を行う上での悩みを共有した。参加者らは、インタビュー対象者との連絡方法や、講師のインタビューガイドの共有や、海外の研究者と共同研究を行う際に発生する言語データの解釈の不一致や、対象者の識字率が低くアンケートの実施に苦慮したことについて意見を交換した。

分科会開催後のアンケート結果は、回答者 4 名中 4 名が、「講義を大変理解できた」と回答した。時間配分については、3 名が「時間配分は適切であった」、1 名が「長かった」と回答した。自由回答では、「話が理解しやすく共感した」、「研究の進め方について勉強になった」、「研究の進め方を丁寧に説明していて、理解しやすかった」、「学生にとってもわかりやすい会の実施は、ありがたい」と回答があった。また、分科会に希望する取り組みは、「看護研究における理論の活用」、「研究手法」、「学生にもわかりやすい会」との意見があった。研究を進めるうえで、研究者や大学院生が不安や悩み抱えながら研究を進めていることが分かった。研究者が、普段抱えている研究の課題や乗り越える手段を共有する機会を持てたため、本分科会が有意義な会であったと考える。



ブロック名	西日本 ブロック	報告委員名	マルティネス真喜子、桑名紀子	
実施日時	2022年12月17日 10:00~11:30		実施場所	Zoom
分科会テーマ	日本国際看護学会誌への投稿のポイント		講師名・所属	近藤暁子先生 東京医科歯科大学
参加者	計 15 人 (講師以外)			

近畿・北陸・東海ブロック、中国・四国・九州・沖縄ブロック共催の研究会テーマは、「日本国際看護学会誌への投稿のポイント」とし、本学会の雑誌編集委員長である近藤暁子先生より講演いただいた。学会誌への投稿状況として、採択までの過程で取り下げられる事例や、長期にわたる修正を行う必要がある事例なども紹介された。今後投稿を検討している研究者に対し、様々な研究手法（総説、質的研究、量的研究）における其々投稿のポイントを詳細に紹介いただいた。投稿する際には、研究計画の時点での基本事項となる項目を繰り返し検討していく必要があり、参加者らが改めて研究計画について考える機会となった。講師は、本学会の会員の特徴として実践家が多く、論文作成の際の基本事項を学ぶ機会が少ないことが考えられ、研究手法や、論文作成に関する研修を企画する必要があると述べた。今後、研究委員会において、投稿を予定している研究者が、投稿前に相談できる窓口や研究に関する研修の機会を設けることを検討する。

参加者との質疑では、「Substruction は論文内に示す必要があるのか」、「質的研究の際、データ分析過程においてメンバーチェックが必要であるが、対象者が外国人の場合も行う必要があるのか」、「学位論文を投稿する際、投稿規定に合わせてコンパクトにまとめるのが難しいが何かコツはあるか」などがあつた。また、本学会誌の投稿が Web でできるようになり、投稿者が時期を選ばず投稿できるようになった。一方で、投稿の期限がないことで、投稿数が減少しているということが発生していた。投稿者は、論文投稿における基本事項をしっかり学び直し、根気強く自身の研究と向き合うことが求められ、雑誌編集委員会においても、投稿論文としてより良い論文となるよう支援することが確認できた。

